

令和4年度

食品健康影響評価技術研究の二次公募における
事前評価結果について

令和4年10月
研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和4年度食品健康影響評価技術研究の二次公募における事前評価結果

令和4年7月27日から令和4年8月24日まで公募を行い、7課題の応募があった。研究・調査企画会議事前・中間評価部会において、応募内容を審査した結果、下表のとおり、2課題を採択課題として選定し、評価所見等を取りまとめた。

課題番号	JPCAFSC20222207	研究期間	令和4～6年度	
主任研究者	広瀬 明彦	所属機関	国立医薬品食品衛生研究所	
課題名	食品中に存在するナノ粒子のリスク評価手法に関する研究			
研究目的概要	<p>食品中のナノ粒子のリスク評価においては、毒性影響を左右すると考えられるばく露直前のナノ粒子の分散状態を定量的に把握することが重要であると考えられているが、食品中のナノ粒子の分散状態も含めてその定量的分析を行うことは困難であるとされている。本研究では、現状ナノ粒子のリスク評価ガイダンスやナノ粒子を分析する手法の情報収集、整理や課題抽出を行うと共に、食品中のナノ粒子の分析を最新の分析手法と既存の分析手法を比較検証するケーススタディの結果を加えて、食品に直接的あるいは間接的に含有するナノ粒子の分析法と食品中のリスク評価に関する留意事項の基本的な考え方（基本原則）の骨子をまとめる。</p>			
評価所見	<p>（総合コメント） 食品中のナノ粒子のリスク評価の課題、EFSAにおける二酸化チタンのリスク評価の課題等々、現在の国際的視点の動向を把握しており、ナノ粒子のリスク評価の考え方をまとめるための論点の整理に資すると期待できる。</p> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理化学的分析法のウェット研究をどのように生体影響の予測に結び付けるかの道筋が明確でない。 ・初期2年間は、達成目標とその実施計画が明確だが、3年目の研究計画がやや曖昧である。 			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	15.9 / 20 点	4.5 / 5 点	3.5 / 5 点	7.9 / 10 点

課題番号	JPCAFSC20222208	研究期間	令和4～5年度	
主任研究者	五十君 静信	所属機関	東京農業大学	
課題名	細胞培養技術を用いて製造される食肉のリスク評価手法に関する研究			
研究目的 概要	<p>最新の細胞培養技術を用いて製造される食品（いわゆる培養肉）の研究・開発が進められており、当該技術で製造される食品のリスク評価における基本的考え方を検討することは急務である。諸外国では当該食品の安全性確保のルール作りが検討され始めている状況である。</p> <p>本研究では、当該食品の安全性評価に関しこれまでの調査結果や諸外国で検討されているリスク評価項目に関するガイダンス等の情報を活用し、当該食品の特性を踏まえた危害要因（ハザード）を特定し、さらに実際に当該技術によりモデル培養肉を作成し、従来食肉との比較による検査手法を検討・提供することにより、リスク評価の「基本的考え方」の作成に資することを目的とする。</p>			
評価所見	<p>（総合コメント）</p> <p>計画通りの研究が実施され、従来肉との安全性における比較ができれば、培養肉の食品健康影響評価の考え方をまとめるにあたっての貢献が期待できる。</p> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価の基本的考え方の作成を目的としており、構成メンバーも適切である。 ・2年計画で「基本的考え方」を作成していただくようなスピード感が欲しい。 ・モデル培養肉作成の現実性について、最新培養技術の特定を慎重に行った上で、実用化研究を進めているグループとの連携が期待される。 			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	15.5 / 20 点	4.6 / 5 点	3.6 / 5 点	7.3 / 10 点

令和4～6年度の3か年計画での応募であったが、評価所見を踏まえて、令和4～5年度の2か年計画として採択することとする。

(参考)

研究・調査企画会議 事前・中間評価部会委員

(:座長)

圓藤 陽子	圓藤労働衛生コンサルタント事務所 所長
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部 総合品質保証担当
丸井 英二	人間総合科学大学 教授
宮崎 茂	一般財団法人 生物科学安全研究所 参与
山本 茂貴	食品安全委員会 委員長
浅野 哲	食品安全委員会 委員長代理 第一順位
川西 徹	食品安全委員会 委員長代理 第二順位
脇 昌子	食品安全委員会 委員長代理 第三順位

評価項目及び評価基準： 事前評価

評価項目	評価基準
研究の必要性	研究領域の趣旨に沿った研究内容となっているか評価する。 1 食品健康影響評価に関する研究であること 2 研究内容の科学的、技術的意義について 3 関連する研究の実施状況を踏まえ、独創性、新規性等について
研究の妥当性	以下の点に関する研究体制及び研究計画、研究遂行の妥当性について評価する。 1 研究の体制（主任研究者、分担研究者の役割分担） 2 主任研究者等の既往の成果、能力 3 研究の計画、方法 4 研究の実施期間における遂行の可能性 5 費用対効果
期待される研究成果の有用性	期待される研究成果の活用性とその有用性について評価する。 1 既往の成果、研究手法等を勘案し、研究目標の実施期間内における達成可能性について 2 食品健康影響評価への貢献等の可能性について 3 研究の成果の発展可能性について